

発寒ひかり 保育園だより

2020年
3月号

巻頭言

「さよなら ぼくたちの ほいくえん」卒園式の合唱の練習が聞こえてきます。卒園アルバムの私から保護者へのメッセージの結びは、「彼らの50の瞳が、夢と希望を見失わず、いつまでも生きいきと輝き続けられるように共に祈り、大人としての責任を果たしてまいりましょう」としました。

昨年、職員で話し合い「育ちへの祈り」を作りました。

育もう 自立する心を 丈夫な体と豊かに感じとる心を

他人を尊重し、協調・協働する心を

いのちと平和を愛する心を 思考力と挑戦する心を

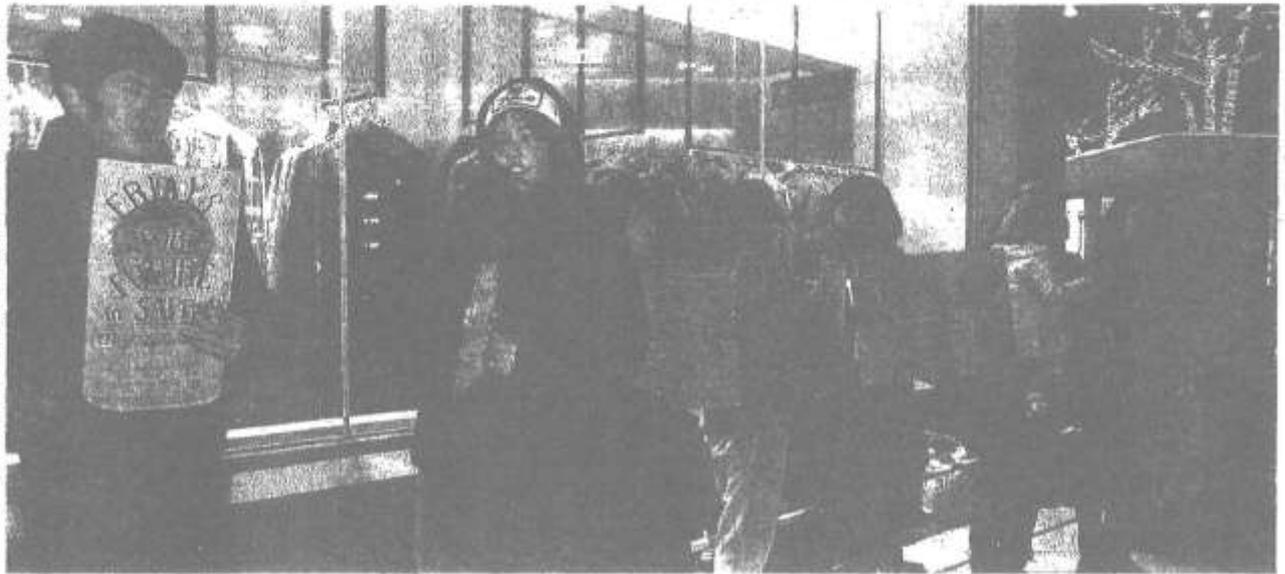
子どもたちの将来を考えた時、最も彼らの「いのち」を脅かしているのは、環境と平和の問題ではないでしょうか。特に昨今の異常気象の原因である地球温暖化の防止は、避けられない課題です。今、世界中の若者たちが立ち上がり、温暖化防止の取組を国や大人たちに訴えています。（裏面に新聞記事）

当園では、誠先生が環境育の一環としてこの地球温暖化をテーマに紙芝居を作り、子どもに、その現状と対策について考えてもらいました。紙芝居では、「森づくり」の大切さについても取り上げています。

先日、お父さんの会で、地球温暖化と私が長年森づくりに関わっている赤井川の山林のことを紹介したところ、大きな反響がありました。自分の子どもや孫、若者たちの将来のことを考えたとき、これらの問題について無関心ではいられないという参加者の思いがピンピン伝わってきました。

さて、子供たちの「いのち」を守るため、目の前の新型コロナウイルスの対策にも真剣に取り組みしましょう。

園長 吉田 行男



厳しい寒さの中、街頭で地球温暖化対策などを訴えるマツト光さん(左から2人目)ら。1月24日、札幌市中央区

温暖化対策 訴え始めた高校生

金曜の夕 札幌の中心で

札幌の中心市街地で金曜の夕方、地球温暖化対策を通行人に呼びかける高校生たちがいる。スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさんに刺激を受けて世界に広がった抗議行動「フライデー・フォー・フューチャー(F4F)」の札幌版。気候変動への危機感を伝え続ける。

「気候が危ない」「今すぐ変えよう」「気候は変えずに自分が変わる」

「What do you want?」(何がほしいの)「Climate justice」(気候正義)

「When do you want it?」(いつほしいの)「Now!」(今)

1月24日午後5時半、札幌市中央区の札幌パルコ前。雪が舞うなか、高校生ら11人が声をそろえてメッセージを訴えていた。「SOS」「行動を始めてみませんか」などと段ボールに手書きしたプラカードを掲げている。中学生や大人、親子連れの姿もあった。

海面上昇など地球温暖化の話題とともに、プラスチックごみが増え続けている問題にも時間を割いた。マイクでプロラスチックとなって海を漂い、もう人間の体にも取り込まれていることなどを説明し、消費に歯止めをかけるよう求めた。同区の高校3年生マツト光さん(18)は、目の前の人に話しかけるように訴えた。「こんなに寒いのに私たちがここに立っているのは、政府が変わってほしいからじゃなくて、皆さん一人ひとりがアクションを起こしてくれるって信じているからなんですよ」

「小さなことで未来変えられるかも」

「たちがやる」と思っていて、マツトさんから市内の2高校の生徒有志が10月に始めた。年末年始などを除き、これまでほぼ毎週続けている。

大通公園でスタートした当初は、話を聞いてくれる人はほとんどいなかった。ところが今の札幌パルコ前に変えて続いているうちに、活動費を寄付してくれる人や、「私も参加したい」と一緒に立つってくれる人が出始めたという。

マツトさん自身、環境のためにしているのは「マイボトルとマイストローを持ち歩くとか、使っていない電気をこまめに消すとか。当たり前のことしかしていない。私たちは本当に普通の高校生」と話す。

「でも一人ひとりがちょっとだけ身の回りを直してできることを続けられ、すごく大きなことをしながらも、未来は変えられるのでは」

大学受験を目前に控え、今は参加しづらい友人がいる一方、後から加わった人もいる。マツトさんは「11時のムーブメントで終わらせたくない。100回は続けたい」と話す。

(片山優志)